営農だより　りんご

令和４年5月１８日　発行
弘前地区営農係

管内のふじの生態は、開花日で平年より８日程度早い５月１日となり、落花日では平年より７日早い５月１１日となっています。
開花結実調査の結果管内では、一部園地で低温の影響と５月上旬の高温干ばつ、強風によりカラマツも見られております。
摘果作業は、園地の状況を見ながら進めていきましょう。

●管内のふじの生態●

調査地点	開花日	満開日	落花日
薬師堂	４／２９	５／４	５／１０
狼森	５／１	５／５	５／１１
小沢	５／２	５／５	５／１２
平年	５／９	５／１３	５／１８

開花日：1～2花開花したとき。
満開日：頂芽花の70～80％が開花したとき
落花日：頂芽花の70～80％が落花したとき

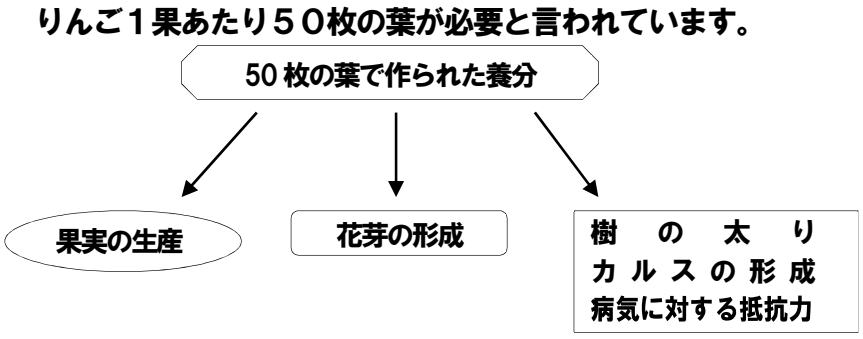
●摘果作業●

一部園地では、霜の影響と思われる中心果の短い果実や、カラマツの被害が見られております。
一つなり摘果は実止まりや果実形質の良し悪しが判別できない時期（落花 10～15 日後頃）までとし、果実形質の判別が可能になった時点から仕上げ摘果へ切り替えましょう。

・ツルが《長い・太い・曲がりがないもの》を残すようにしましょう。
・充実した花芽（花が多い花そう）に成らせるようにしましょう。

中心果のつるが短い果実

りんご１果あたり５０枚の葉が必要と言われています。



◇作業手順◇

一つ成り摘果～仕上げ摘果	新梢停止期まで（７月上旬まで）
見直し摘果（無袋）	新梢停止期以降（７月中旬～お盆の頃まで）

◇適正着果量の目安◇

つがる・ジョナゴールド	３．５頂芽に１果
ふじ・王林	４頂芽に１果

●摘果剤●

品種	散布時期	薬剤
ふじ	中心果の横径10mm前後（満開後2週間頃）	ミクロデナポン1,200倍 350ℓ/10a以上
ジョナゴールド	中心果の横径15mm～16mm	

ふじの散布タイミングは、５/２０頃！！展着剤加用
薬液は十分かかるようにしましょう。
※散布が遅れた場合でも、摘果しやすくなるなどの効果があります。

●薬剤散布●

ふじの落花２０日後頃までが黒星病の重要防除時期となります。
黒星病の子のう胞子は気温の低い降雨時に飛散しておりますので、散布間隔は１０日以内で散布を行いましょう。

回数	散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤	１０００Ｌ当りの薬量	防除上の注意
４	４００Ｌ/10a	ふじの落花１０日後頃	黒星病 斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ クワコナカイガラムシ	１　ジマンダイセン　６００倍 ２　ネオミクス　２５０倍	１.６７ｋｇ ４ｋｇ	黒星病防除の重要時期ですので、１０日以内で散布を行いましょう。
５	４５０Ｌ/10a	ふじの落花２０日後頃	黒星病・黒点病 斑点落葉病 クワコナカイガラムシ	１　デラン　１５００倍 ２　スプラサイド　１５００倍 ３　ネオミクス　２５０倍	６６６ml ６６７ｇ ４ｋｇ	黒星病対策として、散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に散布しましょう。
６	５００Ｌ/10a	ふじの落花３０日後頃	黒星病・斑点落葉病 すす病・黒点病 モモシンクイガ アブラムシ類	１　ジマンダイセン　６００倍 ２　オリオン　１０００倍 ３※ダニオーテ　２０００倍 ４　ネオミクス　２５０倍	１.６７ｋｇ １ｋｇ ５００ｍｌ ４ｋｇ	※殺ダニ剤は発生を確認してから散布しましょう。

・一部園地では高温干ばつの影響によりリンゴハダニの発生が見られております。
ふじの落花 10 日、20 日後頃で発生の気になる方はピラニカ水 2000 倍を加用しましょう。

暑い日が続いております！農作業中は熱中症対策を万全に行いましょう！！